SHINGO★西成

しんご★にしなり

インタビュー

西成出身ラッパーのSHINGO★西成さんと住みます芸人ガオ～ちゃんによる対談がホテルブルーメン花園北にて行われました！

ガオ～ちゃん：ガオ～と生まれて12年、西成区住みます芸人ガオ～ちゃんと申します。ガオ～。

SHINGO：すげーな。ガオ～。

ガ 平成18年にラッパーとしてCDデビューして以来、ライブ活動やアルバムリリースなど大活躍されてます。デビューのきっかけは？

S 小さい頃から、喋ることや周りの空気をパッと明るくすることが好きで、それを見た先輩から「ラップっぽいな」「なんかしてみたら」と言われて。学校を卒業してから7、8年の間はサラリーマンをしながら音楽と社会人ラグビーをやってました。

ガ 「SHINGO★西成」とアーティスト名につけられたのは？

S 大胆でしょ？

ガ 大胆！どういった想いで。

S 唯一、自分の誇れるものが地元・西成なんです。近所のおばちゃんらとの毎日の挨拶や声かけとか、それぞれの家庭で作ったおかずを「分け分け」したり、助け合いの文化で育ってきたからこそ今の自分がいるので。好きな言葉で「向こう三軒両隣」ってあって、皆がそれぞれ皆のためにできることを担当する。愛がすげえ溢れてるとこやったんで。俺はこのまちで、この西成で、大阪で、関西でよかったなあって思っています。

ガ 西成で生まれ育った体験をもとに出した曲も多く発表されてますが、そこに込めた想いは？

S 日々の感謝を忘れずに、毎日皆に気にしてもろて、周りがあって俺ら生きてんねんでっていうのを伝えたい。西成の日常の出来事を歌うことで、皆さんにさっきの分け分けのような西成のええ文化を再認識してもらいたいです。

ガ 僕も西成に住んでみて、いいまちやなと思います。SHINGOさんは、西成でのボランティア活動にも力を入れておられますよね。区のイベント「元気です！西成!!」にも1回目から出演されています。

S 元気化革命をしてるっていうか。この元気を、この笑顔を、この熱さをもっと多くの人に伝えたいと思ってやっています。会場が身近な区民センターやから、地元のお年寄りや子どもたちとか、いろんな人に来てもらえるんでうれしいですホンマ。

ガ 人権について考えてもらうイベントでもあるんですよね。

S 人権とか難しいことは意識しなくても、いろいろな生き方を受け入れて生きてきたから。このまちで育つなかで、人権のことを学んできたと思います。サラリーマン、飲み屋の姉さん、ガラガラにいっぱい荷物積みながら行く人、爺ちゃん婆ちゃん、車いすの人、その間をもうUFOみたいに走り抜けていく子どもたち。隣の人の生き方を「理解する」ことは難しいかもしれないけど、「受け入れる」ことが大切なんじゃないかな。家族で子どもを育てられへんねやったらまちで育てたらええねん。思わへん？

ガ まち全体で支え合うっていうのが理想ですね。炊き出しのボランティア活動やまちをウォールアート（壁画）に変貌させる西成ウォールアートニッポン（「西成WAN」）にも取り組んでおられますね。

S 炊き出しは今できることを今できる人がやればエエやんと思って20年前からお手伝いしてます。「西成WAN」は、まちの落書きを消して、まちをアート回廊や美術館にしようと。絵を辿っていったら西成の楽しいところに着く。面白くないですか？

ガ 歩いているだけでも楽しいですもんね。SHINGOさんは西成のどんなところが好きですか？

S いろいろな生き方、いろいろな歩く速度、いろいろな価値観をもっている人が生活できるまちやね。道に迷っている人がいたら声をかけたりして、そのやりとりするところもいいね。路地裏も楽しい。

ガ おススメスポットは？

S いっぱいあるけど「すし寛」は西成の宝ですね。飲み屋が多い中、庶民のためにあんだけおいしい魚を寿司を最高のおもてなしで気どらず出してくれる。あそこで食うために頑張ろうとか思えます。

ガ 西成のまちはだいぶ変わってきていますか？

S 新しいビルが建ったり、不法投棄も減ってきれいになったけれど、人情があるというか、困った時に助けてくれるところは変わってないし、このまま変わらないでほしいなあと思います。

ガ シンゴサンタさんで子どもの施設でケーキを毎年配られてますね。

S まだ音楽で飯食えてない頃、最大限出せる金でケーキを買って、自分たちで配ってた。昔、子どもの里にライブに行ったときに、「だんご三兄弟歌っ